

大阪を生きる 12人の物語 第0回

ホスト 高島幸次

ゲスト 仲野 徹



大阪の魅力を探る連載、再始動！

——今回新たに始まる連載「大阪を生きる12人の物語」では、ホストに高島幸次さんをお迎えし、毎回ゲストとご歓談いただくなかで、大阪の魅力を掘り下げていきたいと思っております。趣旨は、以前仲野徹さんにナビゲーターをお願いしていた対談連載「大阪しちーだいば〜」（後に、ちいさいミシマ社より「仲野教授のそろそろ大阪の話をしよう」として刊行）に近いのですが、「しちーだいば〜」では、食、言葉、落語、といったテーマに合わせてゲストをお呼びしていた一方で、「12人の物語」では、まず人に焦点をあて、その人の語りから大阪らしさの何たるかを探っていけたらと考えています。

仲野 すっかり忘れてしまってますけど、「しちーだいば〜」は、いつごろやってましたっけ？

高島 今日の対談のために調べました。二〇一六年一月から一八年の十月までです。

仲野 もうそんなに前になりますか。高島センセはその第一回のゲストで、大阪城天守閣館長の北川央さん

なんかも紹介していただいて。

高島 仲野センセの第一回のゲストが僕で、僕の連載の第0回のゲストが仲野センセって、こんなんでええんですか？

——仲野さんと高島さんによる二本の連載は、大阪の文化的な豊かさを掘り起こす「駅伝」の往路と復路のようなものだと考えているので、最初のゲストは仲野さんしかないない。

高島 なるほど、それで「しちーだいば〜」を引き継ぐかたちで、僕が今回ホストの役を引き受けさせていただくことになったわけですか。

仲野 今回は、なんやエライまともなタイトルですね。

高島 ホストがまともやから。でね、今日仲野センセに来ていただいた限りは、まずは大阪大学の学長選挙の話を書いてほしいという編集部からのリクエストがあります。今年（二〇二二年）の五月の話でしたけど、まわりは僕に「仲野センセ、阪大の学長選挙に立候補したの？」って聞かはるんです。でも、この言葉、「学長」も「選挙」も「立候補」も、みんな間違いですよね。

仲野 まあ学長でもええんですけど、阪大では「総

長」というのが一般的です。旧帝大時代に総長ゆうてた名残です。私学でも早稲田とか、法政大学も総長ちゃうかったかな。一般名称としては学長で、一部の大学では総長という言い方をいまでも使ってるって感じですかね。かつこよく聞こえるからでしょうか。

高島 しかも、その総長の選挙は「選挙」ではない？

仲野 あくまでも意向投票、参考意見なんです。うちの大学の場合は、意向投票に参加する権利のある教授の投票を参考にして、総長選挙会議が最終的に総長を決めるといふ流れになります。

高島 じゃ、誰が総長候補になるかというのと、「立候補」じゃないんでしょう？

仲野 推薦者が二十人集まって、代表推薦者が候補を推薦するという形式です。自民党の総裁選なんかは立候補するために推薦者が二十人必要ですけど、こっちは推薦者二十人の推薦を受けた人が、「推薦をお受けします」という書類を大学に出すんです。お公家さんみたいな回りくどさですよ。

——大学の総長（学長）選びって、全国でそういう制度になっているんですか？

仲野 大学によってやり方は違うはずですよ。候補者に